

かねのわらじ
金草鞋 (1613年～1834年)



旅人が行き来した貝田商の様子

徳江観音寺鉄道絵馬 明治25年 (1892年)



かつて貝田の街中を通過していた鉄道

昭和30年代の町並み



現在の町並み



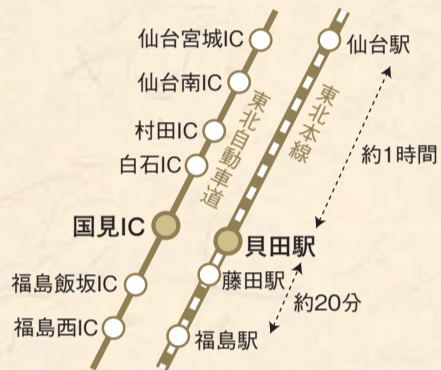
アクセス

■JRをご利用の場合

- 福島駅から貝田駅まで
JR東北本線で約20分
- 仙台駅から貝田駅まで
JR東北本線で約1時間

■お車をご利用の場合

- 福島から車で約40分 (21.8km)
- 仙台から東北自動車道国見ICまで約50分 (60km)

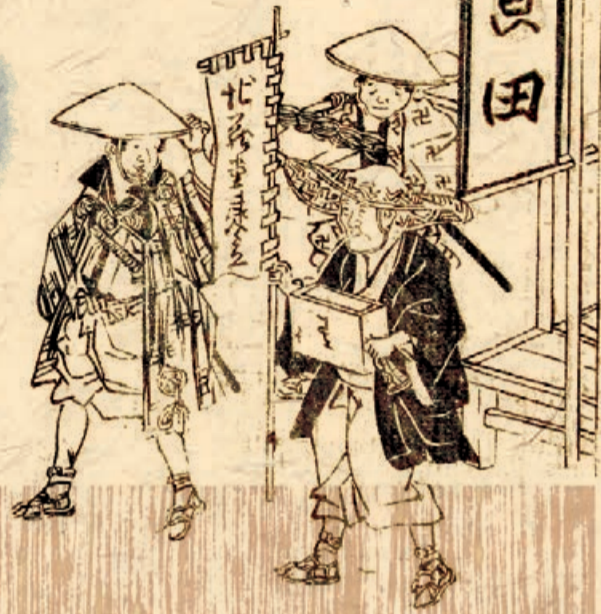


国見町

貝田宿

散策ガイド

古えに
触れながら



福島県

国見町教育委員会

所在地 〒969-1761 福島県伊達郡国見町大字藤田字観月台15
電話 024-585-2676 (国見町観月台文化センター内)
URL <http://www.town.kunimi.fukushima.jp/kangetsudai/>

昭和27年 (1952) 東北本線の貝田信号所が昇格、貝田駅となる。

昭和27年 (1952) 東北本線の貝田信号所が昇格、貝田駅となる。

この火災の前後、数年おきに大火が発生する。宿場から養蚕のまちへ

4月、貝田、東北本線の機関車からの飛火で大火、全戸数54戸中の28戸が焼失する。

明治41年 (1908) 12月、東北本線が開通

明治19年 (1886) 6月22日、明治天皇東北御巡幸

明治9年 (1876) 廃止する。

明治5年 (1872) 貝田宿、佐馬所 (問屋)、助郷が

口留番所岡田庄兵衛がみられる。

天保3年 (1832) 3月、「貝田村宗門人別帳」によ

り、名主孫四郎、検断彦次郎、

稀なるゆえ、色白く風儀宜し…」と

記す。(東遊雑記)

天明8年 (1788) 6月、古川古松軒が、貝田宿を通

宝暦11年 (1761) 貝田村の家数52軒、人口281人 (男171人、女110人) 馬16匹とあり、名主大沼孫十郎、検断兵左衛門の名。(御巡見使案内)

元禄11年 (1698) 「伊達郡貝田村図」が描かれる。

元禄2年 (1689) 5月3日、松尾芭蕉貝田宿を通り白石に向う。(奥の細道)

万治年間 (1658～1660) 光明寺村より貝田村が分立する。

寛永15年 (1638) 大内市右衛門を番所役となす。

慶長10年頃 (1605頃) 貝田を含む光明寺村の戸数73戸、人口247人 (男146人、女101人) とあり (邑鑑)

天正16年 (1588) 橋本郡富岡村曹洞宗雲雲寺の末寺として、貝田宿に最禪寺 (長慶和

尚) を創建す。

天正年間 (1573～1591) 伊達政宗のころ、藤田宿と越河宿 (白石市) との間に合宿として、貝田宿が置かれたとの伝えがある。

天文22年 (1553) 貝田郷に孫左衛門屋敷、寺屋敷、

「貝田郷」の名前が文獻に登場。

天文7年 (1538) 6月、古川古松軒が、貝田宿を通

り、民家何れも糸を引き、絹を織

り出すゆえにや、家居もよく人物も

度しからず、婦人戸外に出づること

いた。(伊達晴宗采地下賜録)

秋葉神社のおまつり



観音堂



水雲神社拝殿



- ◆秋葉神社 秋葉神社春季例大祭(山車・「宿」制度) 4月中旬
 - ◆盆踊り 8月中旬
 - ◆水雲神社 水雲神社秋季例大祭(「宿」制度) 10月中旬
 - ◆最禪寺 講の活動
- 旧貝田宿及び周辺では、宿場の東西に鎮座する水雲神社と秋葉神社における祭礼・宿場の町尻に位置する最禪寺の講の活動などが人々により続けられています。
- 旧宿場の町尻に隣接する秋葉神社と旧貝田村の村社である水雲神社(水雲神社)が行われています。祭礼は、貝田地区の神社と町内会に加え「宿」に割り当てられた10軒の家主が中心となり準備と当日の運営がされています。宿は、旧宿場の家々や地区内の10軒が年毎に輪番で担当する制度で、中でも「大宿」とよばれる家がその取りまとめを行います。この10軒は1年を通じて務めています。